

キベリマルクビゴミムシ *Nebria livida angulata* Bänninger

【選定理由】

かつては平野部に普通の種とされていたが、近年生息地は急激に減少しており、県下では最近の生息情報がない。

【形態】

近似種の花モンマルクビゴミムシ、カワチマルクビゴミムシとは、頭部は全体が黒色で複眼の間の頭頂部に一對の赤斑があること、上翅は周縁部を除いて黒色となり、第3間室に剛毛孔点があることなどで区別できる。

【分布の概要】

【県内の分布】

庄内川河川敷（竜泉寺下、下之一色町、高蔵寺町）や名古屋市内各地などで採集記録があり、標本も現存するが、いずれも1950～1960年代の採集品である（岩崎・蟹江，1990；穂積，1960；長谷川，2002；長谷川，2017）。

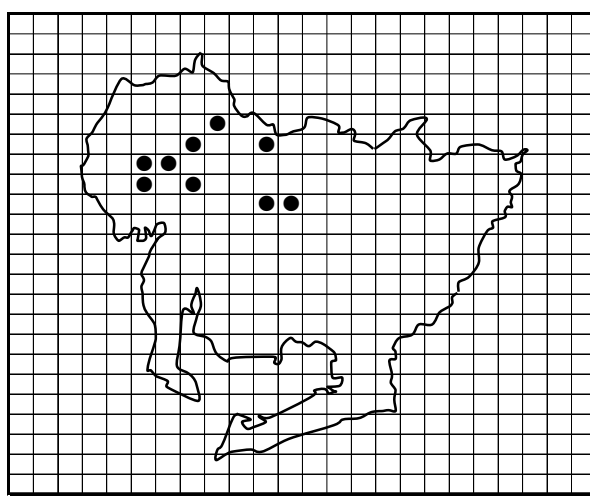
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

朝鮮半島、中国、シベリア東部。基準亜種はヨーロッパからアルタイに及ぶ広範に分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

平地の大きな河川敷の水辺から離れた、やや乾燥した草地で見つかる。

【現在の生息状況／減少の要因】

この50年ほどの間、生息情報がもたらされておらず、すでに絶滅している可能性が高い。具体的な減少の要因は不明であるが、河川改修や草地、低湿地の開発、農薬の影響などが考えられる。

【保全上の留意点】

生息状況、生態の詳しい調査が先決と思われる。また、河川の改修、管理にあたっては、その河川が本来もつ自然環境を損なわないような配慮が必要であり、可能であれば、本来の姿に復元する努力も必要である。

【特記事項】

三重県では、絶滅種とされている。

【引用文献】

- 岩崎 博・蟹江 昇, 1990. 愛知県のオサムシ類. 愛知県の昆虫, (上): 309-338. 愛知県.
穂積俊文, 1960. 東海甲虫誌(9). 佳香蝶, 12 (41): 17-23.
長谷川道明, 2002. 豊橋市自然史博物館所蔵森部一雄コレクションに含まれる重要な愛知県産甲虫類. 豊橋市自然史博物館研究報告, (12): 49-53.
長谷川道明, 2017. 豊橋市自然史博物館に新たに収集された東海地方産絶滅危惧甲虫の標本について. 豊橋市自然史博物館研究報告, (27): 31-35.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)